

2013/14 WEEKLY BULLETIN



国際ロータリー第 2790 地区第 3 分区B

市原ロータリークラブ会報

第2424 回例会 2013 年 10 月 16 日(水) SAA(司会)／小池会員 会報担当／篠田会員

事務局 五井グランドホテル 市原市五井 5584-1 TEL.0438-38-3535 例会場 淡粧



ENGAGE ROTARY
CHANGE LIVES

- 点 鐘 市原 RC 会長 泉水孝夫
- ソング 手にてつないで
- お客様 本日はごさいません
- 会長挨拶 市原RC会長 泉水孝夫



皆さんこんにちは。本日は、R情報委員会主催により『R情報研究会』です。これは、入会の浅い会員を対象にロータリーについてより一層理解を深めて頂くために各分区毎に行ってきた事業ですが、今年度は地区単位で行うと言う事で、今までの趣旨とは違った方向になって居ります。

そこで、今年度は市原RCとして開催する事となりました。ロータリーについての理解を深めて頂くだけではなく、会員どうしのディスカッションのなかで親睦を深めて頂きたいと思ひます。まず、コーディネーターの白鳥さんから討論会型式で問題提起をして頂き、その後、各テーブル毎にロータリーについて話し合ってください。テーマは『ロータリーと親睦について』等話のきっかけとしていかがでしょうか？その後その内容をより深い所まで掘り下げる事ができれば理想的ですが、今日は最初の試みだとお考えください。

また、本日の結果を踏まえて、これからの炉辺会談等に活用して行きたいと考えて居ります。本日はよろしくお願ひ致します。

●幹事報告

千葉北ロータリークラブより例会変更の案内が届いています。

・平成 25 年 11 月 6 日(水)を平成 25 年 11 月 9 日(土)～10 日(日)地区大会に振り替え。

・平成 25 年 11 月 27 日(水)時間変更 点鐘 18:30 市原 RC との合同例会の為。

●本日のメインプログラム

「人生を豊かにするロータリー」

研修委員会委員
白鳥 政孝

本日の情報研究会では、関口ガバナーの意向で比較の入会歴の浅い会員にたいして、ロータリーを教育していただくためにクラブのベテラン会員が参加されています。

そのテーマは「会員増強の意義について」を挙げております。文字通り会員を増やして、会員のレベル向上と会員維持を図るには、どうしたらよいかを研修する会合であります。

このテーマは、ロータリーに限らず、あらゆる組織や団体の維持・



発展には欠くことのできない基本的テーマであります。ですから、今日の研究会は、関口ガバナーの地区運営について並々ならぬ決意を感じております。

さらに、ロータリーの教育機能の基になっている「例会の重要性」と、ロータリアンとして精神的な拠り所となっている「職業奉仕の重要性について」をも取り上げています。

関口ガバナーと杉木研修リーダーのお話を伺い、そのあとで討議しようという意義あるテーマの情報研究会であります。

ここで、皆様が今までに培ってきたロータリーに対する思い、つまり、個々のロータリー観に本日の研修会で得たロータリー観を加えていただき、一段と進化したロータリーへの思いをクラブに持ち帰り、会員の方、とりわけ入会歴の浅い会員と話し合ってください。ロータリーの本質というか、ロータリーの良さを知っていただくようにして下さい。

私の演題が「人生を豊かにするロータリー」で本日のメインテーマにマッチしないと思われるでしょうが、情報の伝達の心構えを若干話してみます。

ガバナーをはじめ、このセミナーに参加している方は、学んで得た知識や考え(理念)をどのように会員に伝えて行くかが大きな課題になっていませんか。

これは、大きな問題であります。セミナーで学んだ知識や情報を的確に伝える場を持たないで、簡単な報告で済ましてしまいか、報告すらしないことが多いように思います。

たまたま話し合う機会を持ってもクラブ会員は一国一城の主ですから、縦社会のリーダーシップを発揮して、長年の経験から強い信念と誇り、それに確固たる先入観を持っています。なかなか人の言に耳を傾けてくれません。

ロータリー情報が、クラブに浸透しない大きな原因となっています。先入観を持っていない子どもに教えるのとは訳が違い、一国一城の主に向かって、ロータリーとは赫赫云々(かくかくしかじか)と論ずるのは難しいようです。

ここで私たちロータリアンはロータリーのテーマを思い出さなければなりません。

まず、「超我の奉仕」があり、「ロータリーの目的」があります。さらに「4 のテスト」があります。各テーマの根底には、それぞれのロータリアンの関係は、皆横社会であり、お互いの関係は対等(イーブン)であるということが謳われています。平等であるとも言っていますが、対等とは大きな違いあるように私は思います。対等の付き合いというけれど、平等の付き合いとは言いません。男女平等ともいいますが、男女対等等などとは言いません。法の下に平等であるといいますが、法の下に対等であるといいません。対等とは 1 対 1 の双方の関係に優劣や上下のないことをいいます。



ロータリーは地位、名誉、経歴、経営の大小、会員歴、年齢などによる、会員同士に優劣・上下関係はないのです。すべての行動の基本に、対等であるという思想があります。この対等の思想が、ロータリー 108 年の歴史を形作っているのではないのでしょうか。

そうかとって、ロータリーは対等であることを勘違いして、基本的な道徳心を失ってはなにもなりません。長幼の序でありとか、先輩を尊敬するとか、人を敬うとかは人間の基本的な道徳であります。ここは気を付けなければならないと思います。特に最近基本的な道徳が欠けている場面が多いようです。

この対等（イーブン）であるロータリアン同士の関係が、ロータリーでは、縦社会のリーダーシップを学ぶのではなく、横社会におけるリーダーシップを学ぶことになります。

ロータリーでいうリーダーシップとは、自己抑制・忍耐・多様性、つまり違いの容認、高潔性（品格）、指導性などのことをいいます。このリーダーシップを身に付ける機会がロータリーには多くあります。つまり、自己研鑽を積む場を与えています。

「親睦と奉仕」はロータリー運動の二本柱ですが、そこには常に人間的な成長が求められています。人間形成に留意しなかったら、二本柱の効力は薄れてうまく作用しません。ロータリーは活動すれば活動するほど、人間的成長、人間形成に磨きがかかります。ご出席の皆様にはそのような体験をお持ちではないのでしょうか。

もし、ロータリークラブに対等な関係がなく、俗に言う親分・子分の関係が横行しているとすれば、自由闊達な意見は妨げられ、人間的成長は望めません。刹那的な娯楽を求める親睦の傾向が強まってしまう、例会は陳腐なものになり、クラブに活気がなくなり、衰退してまいります。

そこで、この対等な関係を維持・発展させるには、どうしたらよいかを考えてみたいと思います。

どうでしょう、ロータリーのテーマである「超我の奉仕」“Service Above Self”を思い出してください。自分のことよりも人のためになる事を考えて行動しなさいといひます。

これは、人間の本能と全く相反することですから、本能を抑える訓練をしなければなりません。

ロータリーでは、その訓練（自己研鑽）を積みなさいとしています。

NO と言っはいけないとか。原則一年交替制を敷いて全員が役をこなして頂き、ロータリーの理念と実践を程よく調和させています。

皆様の経営する会社や専門職では、縦社会のリーダーシップを発揮する場ですが、ロータリーは、対等な人間関係から、例会で切磋琢磨されて、個々の人間形成ができるのです。

お互いの向上心からは、心の通う真の仲間意識が醸し出されて、質の良い親睦関係が生まれてまいります。向上心に比例して、人間形成も深まるというものです。

その源である例会を大事にしたいですね。

本日ご出席の皆様が、今日の研修会の成果をクラブに持ち帰り、披露するに当たって、まずしていただくことは、会員皆対等であり、指導するとか、教えるというより、お互いが対等に話し合う、語り合う姿勢が大切（ポイント）になります。

話の場の座長となり、くまなく目配りして、それぞれの意見を聞き出し、真剣に聞いて、皆で考えていただくようにリードする座長となるように心がけることです。

そのような座長になったら最高ですね

参加者は、その問題に関心を示し、自ら考え、尋ねたりするようになれば、しめたものです。クラブは、生き生きとしてまいります。

このような、雰囲気やクラブ内に充満すれば、向上心がみなぎり、前年踏襲型はなくなり、クラブはレベルアップしてまいります。そして、会員の人間性向上心は、切磋琢磨と奉仕活動が相乗効果を発揮してまいります。お互いの持つ趣味や考え方に感化したり、感化されたりしてまいります。

さらに、交友関係が深まり、お互いの人生を豊かに彩るようになります。その豊かな人間形成が、家族、職場、地域社会にゆっくりですが、次々と放出されてまいります。

そして、より良い地域社会の形成に役立つようになります。

これが、ロータリーの公共イメージアップであり、会員増強の役に立つのではないのでしょうか。こうすることは理想であり、夢であるかもしれませんが、でも、一歩でも理想に、夢に近づけることが私たちのロータリアンの使命でないのでしょうか。

これも本日ご出席の皆様の決意次第です。対等な関係を保ち、謙虚さを失わず、向上心がある限り、ロータリーは、その人の人生を豊かにしてまいります。

「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」「情けは人の為ならず」です。

ロータリーから学んで、豊かな人生を周囲の人たちと共に築いていくではありませんか。

真に「ロータリーは私たちの人生を豊かにします」

「山道（やまみち）」を登りながら、こう考えた。」という一文に始まり、「智（ち）に働けば角（かど）が立つ。情に棹（さお）させば流される。意地を通せば窮屈だ。とくに人の世は住みにくい。」

草枕の冒頭の言葉ですが、ロータリーでは智にのみ立つのはご法度です。侃侃諤々（かんかんがくがく）と議論が白熱するのはいいのですが、喧々諤々（けんけんがくがく）の状態に転じて、抜き差しならぬ対立を起こすことが往々してあります。職業奉仕で学ぶ「『打算の世界』ではなく『愛情の世界』」であるべきですね。常に相手の身になるように考えるということです。情に棹さして流されるところから知恵が生まれ、良いものがたくさん生まれると信じています。

皆様の向上心への弛み無い努力と成果のご成功を祈ります。

ご清聴ありがとうございました。